

缶に最適!「ぶりき」の驚くべき秘密 (その2)

【Q】一般缶にはいろんな種類がありますが、それに使う「ぶりき」はみんな一緒なんですか？

【A】いいえ、いろんな種類のものが使われています。「錫の付着量」「硬さ」「表面仕上げ」「厚さ」「板の大きさや幅」などを細かく指定することができます。

【Q】そうですか。

いろんな用途に使われるんだから、細かく仕様が分かれているのはよく分かります。

ところで**缶容器の材料として最適**ということなんですけど、そのために、どんな工夫がされているんですか？

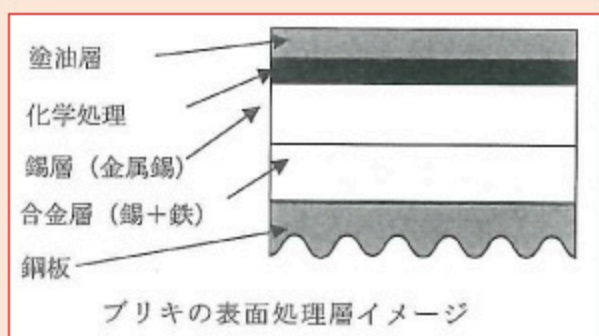
【A】素晴らしい質問です！「缶容器の材料として最適」であるためには、どういったことが為されてきているのか、基本的なことも含めてご覧になって下さい。

高速生産への対応！

- ・高速生産のためには、**板厚の精度**がきわめて重要。(例えば、飲料缶用の連続溶接機は、1分間に約500～1000缶程度のスピードで製缶されます！)
- ・そのために、板厚は熱間圧延工程と冷間圧延工程を組み合わせることで、きわめて高い精度を実現。0.2ミリ程度の薄いものにまで仕上げることができます。

綺麗で加工しやすくするための工夫！

- ・表面には「**塗油層**」。取り扱いしやすくキズがつきにくくしています。
- ・第2層に**化学処理層**。錫の酸化を防止塗料の密着性を高めています。
- ・第3層の**錫**は、メッキをしたあとに溶融処理をして、表面光沢を確保。
- ・第4層には**合金層**を生成させ耐食性を確保。



協力／新日本製鐵株式会社

平成 25 年 1 月 1 日

一般缶の良さ・楽しさを発信します
全日本一般缶工業団体連合会 優CANレポート 第36号